

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No. -（事務局用）	タイトル 新型コロナウイルス感染症がもたらす様々な課題への対応と ICT 利活用の促進 ～ふだんからの介護サービス・要援護者の見守り支援や災害時対応へのアイデア募集～	自治体名 大阪市住之江区
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	楽しく学びつながり見える住之江区		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	楽しさ満載つながり放題住之江区プロジェクト		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	1	
メンバー数（公開）	6名		
代表者（公開）	中尾将志（なかおまさし）		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）

5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

高齢化と核家族化が進む中で、不確かな知識では正しく恐れることができず、社会からの断絶によって心身の健康維持を損ねています。特に独居高齢者は、知識と社会的居場所が重要です。コロナ禍でより顕在化した「感染症予防を筆頭とした健康リテラシーの不足」と「地域での出番、居場所の創出」という地域課題を解決します。

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで…>

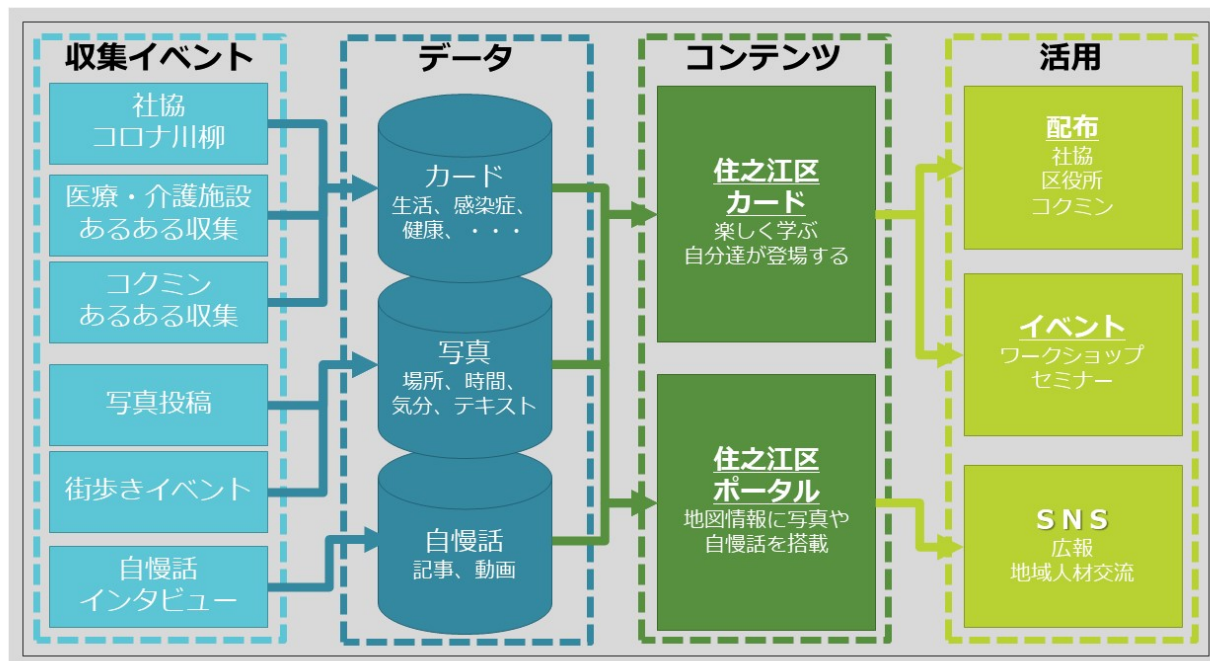
<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

住之江区住民と一緒に、楽しく学ぶコンテンツ（＝住之江区カード）と、住之江区が見えるコンテンツ（＝住之江区ポータル）をつくります。

このコンテンツに搭載するデータを、地域住民や事業者とのイベントと一緒に創り、コンテンツを施設やイベントで配布することで、データ収集から活用までのサイクル全体を住民参加型で行います。

広く住民と構築のサイクルを回しながら、収集・活用イベントを高齢者や障がいを持つ方へ開催することで、情報の届きにくい方への知識提供と居場所の創出を行い、新たな地域のつながりを実現します。



ポイント① 住之江区カード配布で、住民へ共感しながら楽しく知識を届ける

コロナ禍での、生活や仕事の変化、やりにくさ、いろいろなカードにし、区役所、社協、薬局や協賛する事業所を経由して配布し、また、イベント参加者への配布を行います。

地域住民は、クスリと笑いながら、他の息苦しくしている人への共感とともに、少しずつ正しい知識を得ていきます。

カードの裏面には、自分たちの居住する住之江区の写真があり、思いを馳せ、散歩したくなるナッジ効果があります。

カードは「生活」「感染症予防」「健康」などに分類されて色分けし、ランダムに配布することで、だんだん集めたくなくなり、介護福祉施設やイベントへの参加意欲を強めます。

ポイント② 住之江区ポータルで、地域を光景・施設・人でつながりやすく可視化する

住之江区の地図に、風景や名所、特産、美味しいものの写真を掲載します。風景は時間帯で異なる横顔を見せまので、写真情報に位置に加え日付と時間を加えることで、閲覧者は、四季折々のいろんな時間帯の住之江区を楽しめます。美味しい写真、面白い場所を見ながら散歩への意欲を促します。

イベント情報も場所とともに掲載し、イベントに出かける前後の食事や立ち寄りしたい場所を探すこともできます。

また、地域活動を行う方、独居高齢者や地元の名物の方へ自慢話をインタビューし、記事を地図情報に掲載することで地域のハブとなる人や、地域を維持してきた人を見える化します。

その人の顔や価値観が分かることで、さらに地域活動が活性化されます。

この地図ポータルに、防災マップの機能をもたせることで、災害時に、誰が頼れるのか、誰に情報が入るのか、どこに行けばいいのか、をまとめて見ることができます。

普段使っている地図ポータルだからこそ、災害時に自然に活用できるのです。

ポイント③ カードとポータルコンテンツ収集を住民参加型イベントで住民と共に創る

カードは、住之江区社協で実施中のコロナ川柳や、医療・介護施設や薬局でのあるある話を聞くイベントを開催し、楽しい情報を収集します。（社協から高齢者を対象としたコロナ川柳の募集を2020年11月より実施中。コクミンの薬剤師を対象とした薬剤師あるある座談会1回目を12/17に開催。今後、医療・介護施設他でのイベントを開催しながら収集予定）

写真データは、SNSによる写真募集（「正月の風景」「誰もいない朝」「夕焼け」などテーマごとに収集）と街歩きイベントで収集していきます。

独居高齢者に自慢話を聞かせて頂くイベントを開催し、自分が楽しむために外に出歩く機会創出と、ポータルに掲載する記事作りを行います。

情報収集を住民が楽しめるイベントにすることで、コストやストレスのかからないインプットデータ構築ができます。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

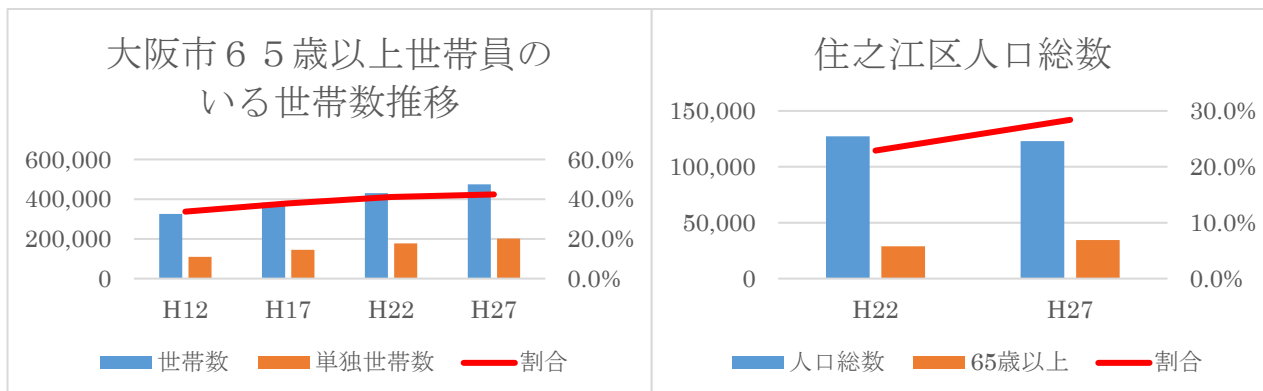
(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

地域課題にある「ふだんからの介護サービス、見守り支援」を、このコロナ禍において考えた時、独居高齢者が介護サービスを受けにくくなっている仮説を設定しました。



平成28年11月公表の「平成27年国勢調査<人口等基本集計結果（大阪市）>」をもとにグラフ作成。グラフでも明らかなように、大阪市の65歳以上世帯員のいる世帯数は増加しており、独居割合も増加し、H27年では42.4%となっています。住之江区では、人口総数は微減していますが、65歳以上人口は増加、割合はH27年で28.4%と高齢化社会であることが、データでも裏付けされています。

高齢独居世帯の増加は、今後、情報格差や地域社会からの断絶による孤独死の懸念もありますが、コロナ禍においては、コロナ鬱も懸念されています。

住之江区社協では、地域における要援護者の見守りネットワーク強化として「見守り相談室」事業を行っています。要援護者名簿として、情報集約して地域見守りにつなげ、見守り支援ネットワークによる孤立世帯の専門的対応を行います。対象者同意を得た活動となりますが、同意者は37～38%を推移しています。

地域課題の介護サービス・見守り支援を受けやすい状況にするには、すでに4割近い同意者がいる見守り支援事業の同意者割合を増やすことが効果的だと考えました。

住之江区社協：見守り相談室 同意者数推移

	対象者数	同意者数	割合
平成28年度	7,481	2,857	38.2%
平成29年度	8,586	3,257	37.9%
平成30年度	10,048	3,753	37.4%
令和元年度	10,586	4,122	38.8%

大阪市住之江区社会福祉協議会より

対象者数が増える中、同意者割合が変わらないのは、介護拒否される方や、そもそも地域との関係性をもっていない方、今までの関係性に問題を抱える方が6割超である状況と推測しています。

2. アイデアの説明（公開）

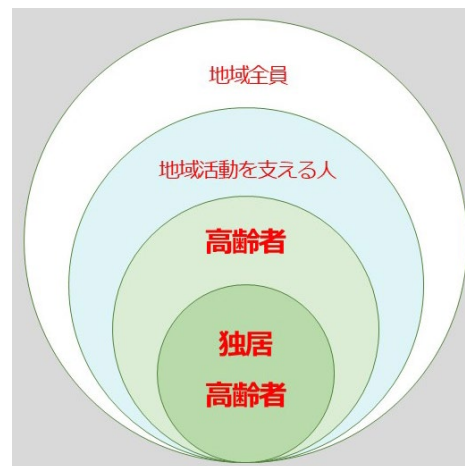
(2) アイデアの理由（公開）

そこで、社協が実施する事業周辺で、新たに地域の中でのつながりをつくることをアイデアの方針におきました。

「ふれあい喫茶は、コロナ禍での未開催や、規模縮小しているが、なくさないで欲しいという参加者の声がある。実際に参加される高齢者はこの日はおめかしして、参加者同士でのおしゃべりを楽しんでいる」（社協職員インタビュー）

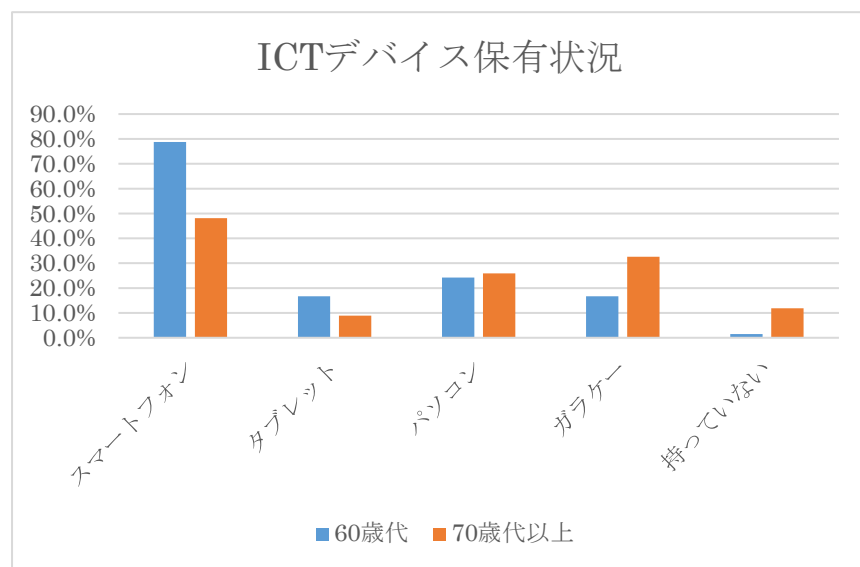
この言葉の通り、人と人の対話を生み出すイベントを、今までとは異なる内容で開催することで、地域に新たらしいつながりを作り、未同意者6割を開拓できると考えました。

独居高齢者をメインターゲットとしつつ、住民参加型イベントにすることで、地域全体との新しいつながりを構築することが、災害時などの有事にも強い地域になると考えています。



また、デバイスは高齢者でも保有している方が多いことが明らかになりました。

使いやすく、使いたくなるコンテンツを提供することで、コロナ禍でのオンラインでのつながりや、災害などの有事の際における情報伝達手段となるため、なるべく普段使いするコンテンツを提供していくことが重要と考えています。



住之江区役所
「令和2年度 第1回住之江区民
アンケート」の
収集データよりグラフ作成

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきま>

ステップ0 当該アイデアの構想を練るため収集イベントのプロトタイプ開催（終了）

- ・住之江区社協にてコロナ川柳の募集開始。
- ・コクミン有志を対象にあるある座談会。

ステップ1 初期コンテンツ収集イベントの開催（～2021/3月末）

- ・住之江区社協にてコロナ川柳を継続し、当アイデアの住之江区カード用に転用。
- ・当アイデア検討メンバーの周辺有志から、あるある収集。
（コクミン継続、医療・介護施設職員）
- ・オンラインイベントを中心に、カードのデータ元100ケースを収集。
- ・写真収集は、Facebook イベントにて呼びかけを行い、冬イベントや時間帯別の風景など100点を収集。
- ・以上は、アイデア検討メンバーとその周辺参加者により、無償にて開催し初期コンテンツを収集。

ステップ2 プロモーションとスポンサー探し

- ・ステップ1を開催しながら、当アイデアのプロモーションを行う。
- ・スポンサー候補としては、第一に住之江区。住民向けポータル、防災マップとしての機能の構築維持を提案。
- ・スポンサー第二候補として、南港や門前町の企業や商店街。住民向けポータルの広告利用。
- ・スポンサー第三候補として、住之江区の町村自治会の自治運営費。
- ・これらスポンサーとの対話を行いながら、ポータルの周辺機能要望を収集し、利用料モデルを構築する。